

2017年4月8日

GM 武漢拠点 2 期着工

昨日、GM 上海自動車の武漢工場において 2 期生産ラインが稼動を開始し、生産能力が新たに 36 万台増え、同拠点の生産能力はトル 60 万台に達した。同日、新型車シボレーの中型 SUV「探界者」は正式に市場デビューを果たした。

2 期の生産ラインは 75 億元を投資し、2015 年 1 月に建設を始め、去年 10 月に完成した。新築したプレス、溶接、塗装、組立の 4 つの技術作業場及び附属施設は GM 社の世界最先端の工業コントロールネットシステムが敷設されており、上海自動車 GM 金橋 cadillac 工場に次ぐ、国内で先頭を切る国際的な競争力を持つスマート工場となる。

その前に総投資額 70 万億元の GM 上海自動車武漢拠点 1 期生産ラインは既に 2015 年 1 月に稼動をしており、最先端の製造技術設備を配置させ、車体工場だけで 452 台のロボットがあり、自動化率が 97%に達し、生産力が 24 万台になった。

現在、同拠点で生産ラインと組み合わせた第一、第二、第三エンジンプロジェクトも既に開始されており、5 つのエンジンプロジェクトが建設中である。GM 上海自動車武漢拠点への投資は累計 293 億元に達した。GM 完成車工場に関するコア部品製造企業は 40 社あり、中の 31 社が既に稼動しており、未来に 200 社の自動車部品組み合わせ企業を導入する予定。

2017年4月11日

2020 年、90 分間で高速鉄道にて 4 省到着見込み

昨日午前、武漢国際会議センターにて、4 市市長が連携契約に共同署名することに伴って、長江中下流 4 省の省都による 2020 年に向けた新しい計画が披露された。

新しく契約された「長江中流都市群省都レベル都市連携行動計画 2017-2020」は 6 つの行動を打ち立てた。

計画によると、現在、武漢、長沙、南昌の 3 市だけが 90 分間内の交通ネットワークを形成しているが、未来、長沙-九江-合肥、武漢-九江-南昌などの高速鉄道を建設し、2020 年には 4 省の省都における「90 分で到着できる」高速鉄道網を建設する見込みである。それと同時に、武漢天河、長沙黄花、合肥新橋、南昌一昌北空港の拡張工事を実施し、華中「一カード通」会社の設立を積極的に準備して、1 カードで 4 市の公共バスに乗れるように努力する。